

○畜産研究所「ふれあい報告会」のお知らせ

平成23年9月2日（金）美濃加茂市 可茂総合庁舎大会議室において、平成23年度畜産研究所「ふれあい報告会」を開催します。

・特別講演

講師：独立行政法人農業生物資源研究所 農業生物先端ゲノム研究センター
家畜ゲノム研究ユニット長 美川 智 先生

演題名：「家畜化と品種改良における遺伝子の変化：遺伝子情報を用いた育種の可能性」

内 容

家畜の育種改良は、メンデルの法則が発見され、その後、統計遺伝学が進歩するとともに飛躍的に進展しました。近年は、分子遺伝学的研究により様々な遺伝子が明らかにされつつありますが、これがどのように家畜育種に貢献できるか、実例とともに紹介します。

・報告会の発表内容

①「発酵乾燥おからの育成期給与が発育及び産卵に及ぼす影響」

養鶏研究部 立川 昌子 主任専門研究員

おからは豆腐製造時の残渣物で、安価で栄養的には優れていますが、食品としての需要は少なく、日持ちがしないため、主に家畜の飼料として供給する他は、ほとんどが廃棄されています。今回、発酵乾燥おからの育成期給与が発育および産卵に及ぼす影響について紹介します。

②「飛騨牛らしい牛肉のきめの細かさと脂肪の質について」

飛騨牛研究部 丸山 新 専門研究員

平成23年2月に発表された岐阜県家畜改良増殖計画に掲げる、脂肪酸組成や肉の締まり・きめ等、肉のおいしさ評価に関する科学的知見の蓄積およびおいしさに関する成分含有量等の指標化に向けた取り組みについて紹介します。

③「無線ICタグを用いた和牛凍結精液流通管理システムの開発と実証試験」

飛騨牛研究部 星野 洋一郎 主任研究員

和牛遺伝資源の海外への流出を防止するため、凍結精液ストローの流通管理の厳密化が求められています。京都大学との共同研究により実施している、無線ICタグを用いた和牛凍結精液流通管理システムの実証試験について紹介します。

④「乳牛の繁殖性向上を目指して」

酪農研究部 傍島 英雄 専門研究員

近年、乳牛では繁殖性が年々低下しており、泌乳能力が向上したことによる酸化ストレス増大等の原因が指摘されていますが、具体的な解決策は提示されていません。それに対する取り組みとして、抗酸化機能性物質を活用し繁殖性改善技術開発をめざした取り組みを紹介します。